



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

JS研修センター

第一線で活躍できる人材の育成をめざして



Japan Sewage Works Agency

日本下水道事業団は、
下水道ソリューションパートナーとして
技術、人材、情報等下水道の基盤づくりを進め、
良好な水環境の創造、安全なまちづくり、
持続可能な社会の形成に貢献します。

JSの地方共同法人たる性格と地方公共団体の代行機関としての役割

日本下水道事業団は、地方公共団体(47都道府県)の出資により設立された「地方共同法人」です。下水道の管理主体である地方公共団体の支援等を通じて、地方公共団体共通の利益に貢献しています。

日本下水道事業団は下水道のプロ人材集団です。地方公共団体からの委託を受けて下水道の根幹的施設の建設、維持管理及び技術的援助を行うほか、下水道に関する研修、技術の開発・実用化や海外支援等に取り組んでいます。

名称：日本下水道事業団(英語表記:Japan Sewage Works Agency)

略称：JS

沿革：1972(昭和47)年11月 下水道事業センター設立

1975(昭和50)年8月 日本下水道事業団 拡充・改組

2003(平成15)年10月 地方共同法人へ移行

設立根拠法(目的)

日本下水道事業団法(昭和47年法律第42号)

第1条:日本下水道事業団は、地方公共団体等の要請に基づき、下水道の根幹的施設の建設及び維持管理を行い、下水道に関する技術的援助を行うとともに下水道技術者の養成並びに下水道に関する技術の開発及び実用化を図ること等により下水道の整備を促進し、もって生活環境の改善と公共用水域の水質の保全に寄与することを目的とする。

研修センターの歩み

1973(昭和48)年2月 研修部で研修開始

1975(昭和50)年3月 試験研修本館竣工

1995(平成7)年7月 総合実習棟竣工

2004(平成16)年4月 機構改革により「研修センター」発足

2012(平成24)年3月 本館耐震化工事終了

2022(令和4)年4月 新察室棟供用開始

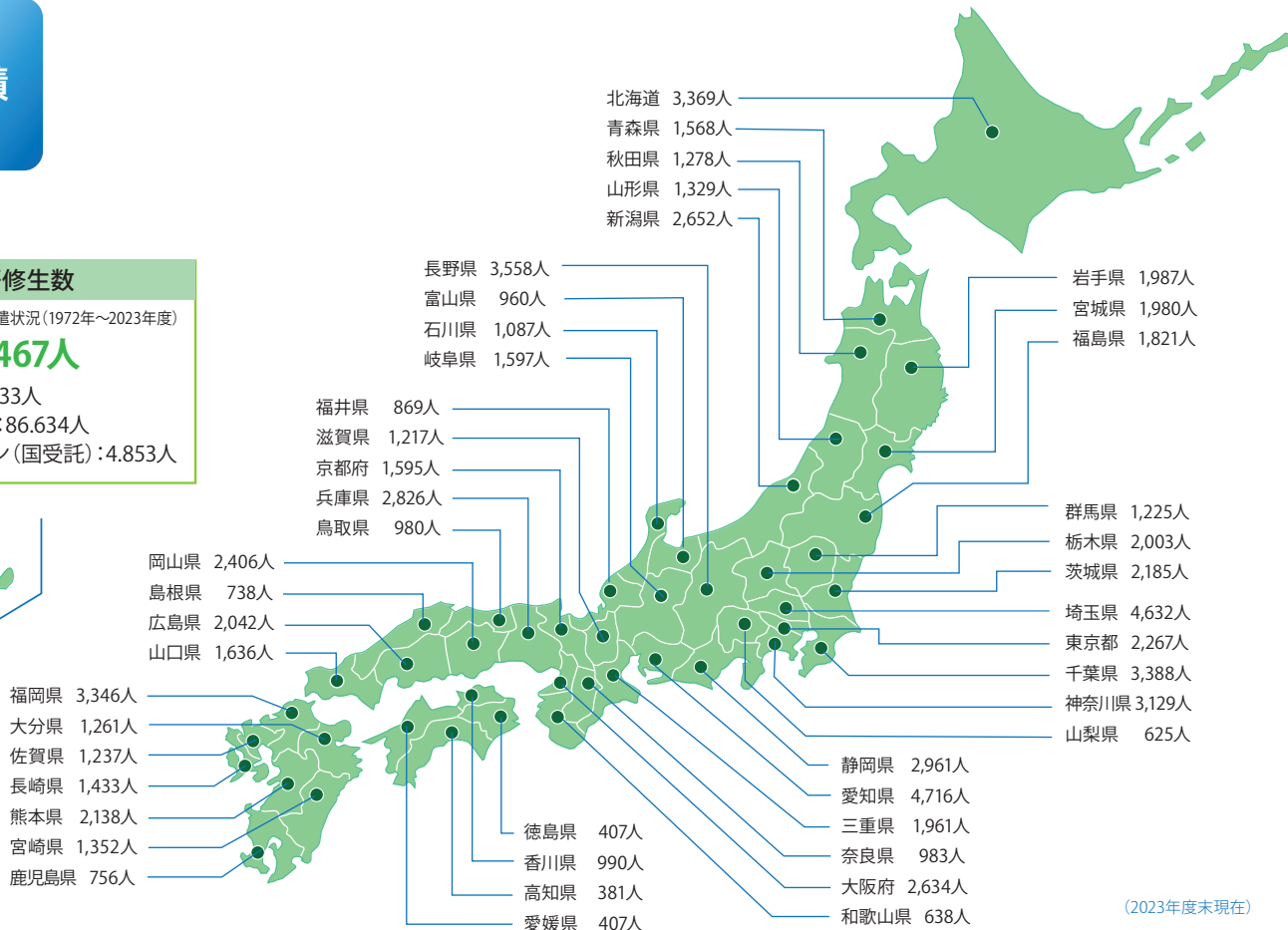
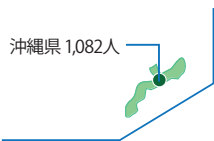
研修実績

都道府県別研修生数

都道府県別研修生派遣状況(1972年~2023年度)

総数:88.467人

- ・国/公団等:1,833人
- ・地方公共団体:86,634人
- ・他にオンライン(国受託):4,853人



(2023年度末現在)

受講生の声

意見交換を行う中で、他の自治体の
下水道事業の状況なども知ることができ、
大変参考になりました。

下水道の部署へ異動したばかりで、下水道に関する知識は全くない状態で、日々の業務も先輩職員に聞きながら、こなしている状況でした。

講義は、「下水道とは」という基本中の基本から、下水道法の概説、管きょや処理施設の基礎知識と演習、下水道経営の現状と課題など、幅広い内容となっていました。研修の中では、各班に分かれてグループワークも行い、意見交換を行う中で他の自治体の下水道事業の状況なども知ることができ、大変参考になりました。

班ごとに分かれて実際に手を動かしながら
学ぶことができ、とても勉強になりました。

講義は下水道歴の浅い私には少し難しい内容でしたが、聞いていた通り講師の方がとても丁寧に教えてくださり、悪戦苦闘しながらもなんとか理解することができました。また、土質実験では、班ごとに分かれて実際に手を動かしながら学ぶことができ、とても勉強になりました。

講義の総まとめとして行われた効果測定は、広い試験範囲に驚きながらも講義後に皆で問題を出し合ったりしながら少しずつ覚えていき、試験本番では研修生全員が一発合格することができました。

全国になんでも相談できる仲間ができたことは、
これから下水道に携わっていく上で、
大変心強く感じています。

入庁したばかりの10代から係長クラスの40代まで幅広い年齢層の方が参加されていました。慣れない集団生活ということもあり、研修前は不安でいっぱいでしたが、いざ始めてみれば、メンバーとすぐに打ち解けることができ、とても楽しく過ごすことが出来ました。全国になんでも相談できる仲間ができたことは、これから下水道に携わっていく上で、大変心強く感じています。

多くの自治体職員の方と交流できる研修は、
なかなかないと思いますので、今回できた縁を大切
にしていきたいと思っています。

研修後の交流会などを通して、最後には皆さんと親交を深めることができました。特に、女性の土木職員はとても少ないので、今回多くの女性職員の方と交流できたのも貴重な体験でした。こういった多くの自治体職員の方と交流できる研修は、なかなかないと思いますので、今回できた縁を大切にしていきたいと思っています。

施設内は感染防止対策が施されていたほか、
セキュリティも確保されていたため、安心して
過ごすことができました。

とても快適な環境で生活することができました。また、施設内は感染防止対策が施されていたほか、セキュリティも確保されていたため、安心して過ごすことができました。昼食、夕食は、2種類から選べるようになっており、研修中の楽しみの1つでした。

下水道に関する専門研修機関 JS研修センター

JS下水道研修は、地方公共団体、民間企業等の下水道担当職員の育成を目的に実施する、実務に即した研修カリキュラムになっています。下水道技術の養成、訓練を行うことで、「第一線で活躍できる人材の育成」を図ります。

個々の学習スタイルに合わせた多様な研修形態

対面集合研修

埼玉県戸田市にある全寮制の施設「戸田研修センター」で研修を行います。オンライン等の研修とは異なり、リアルに研修講師の熱意や他の公共団体の研修生との繋がりを感じながら、実習、演習、ディスカッション、施設見学等により実力をつける研修になっています。

地方研修

「戸田研修センター」への参加が難しい方のために地方に出向き開催する研修です。短期での基礎的内容になりますが、講師との質疑応答、また他団体の受講生との交流などにより、充実した研修が受けられます。

個別課題研修

下水道経営などに関する課題に対して、その分野に精通した講師が状況に応じてカスタマイズした内容で当該団体職員に向けて行う研修です。(講師派遣型またはオンライン型)

オンライン・オンデマンド研修

- ▶場所を問わず、基礎的な内容を短期で受講可能な「オンライン研修」
- ▶配信期間内であれば都合に合わせて何度でも学習できる「オンデマンド研修(動画視聴)」

下水道のライフサイクルを網羅した研修コース

コース細分化と専攻教科でいち早く 専門技術者を育成

下水道事業を適正に執行する上では、事業の進捗に応じた職員の育成・能力向上を図ることが不可欠です。日本下水道事業団法(第26条)において「下水道に関する技術を担当する者の養成及び訓練を行うこと」とされており、これに基づき、7つのコースを設け、下水道のライフサイクルの各段階に対応した様々な専攻を用意しています。(民間研修は共通、設計、施工、管理に区分しています。)

研修コース

基礎	下水道事業に係る基礎的研修
計画設計	業計画、ストックマネジメント計画等の策定技術の向上
経営	下水道の経営に関して広い知識の習得
実施設計	管きよ・ポンプ場・処理場施設等における実施設計技術の向上
工事監督管理	管きよ・処理場等の建設工事における監督指導技術の向上
維持管理	管きよ・処理場施設等の維持管理技術の向上
官民連携	官民連携に関する知識・ノウハウの習得

実務経験豊富な講師陣

下水道の現場を担う専門家が最新の知見を伝授

JS職員に加え、カリキュラムに精通した国及び地方公共団体等の職員、民間企業の第一線で活躍するエキスパートの方などを講師としてお迎えするため、最新の下水道行政や下水道技術の習得が可能です。

実力を養う研修カリキュラム 実習・演習から学ぶことで確実なスキルを身につける

コース別の主な実習及び演習		
コース名	専攻名称	実習・演習内容
計画設計	総合的な雨水対策	雨水流出解析の演習
実施設計	管きよ基礎 管きよ設計Ⅰ 管きよ設計Ⅱ	現場踏査、流量計算、土留計算、土質実験、設計図面作成、開削・推進の積算演習
	処理場設計Ⅰ 処理場設計Ⅱ	処理施設の容量計算、配置計画
	処理場設備の設計	機械・電気設備の積算演習
	工事管理	土質実験、コンクリートの配合設計・テストピース作成・圧縮試験
工事監督管理	管きよの維持管理	管きよの浚渫、清掃積算演習、管路施設の調査点検、診断実習、排水設備の設計演習
維持管理	処理場管理Ⅰ 処理場管理Ⅱ	水質分析、生物診断、脱水実験、ポンプ運転、電気回路実習
	水質管理Ⅰ 水質管理Ⅱ	水質・汚泥分析、生物診断、臭気分析
	電気設備の保守管理	継電器試験及び高圧盤操作



下水道法第22条資格取得のための指定コースを設定

資格取得に必要な 実務経験年数を短縮

下水道法では、下水道施設の設計、工事監督管理及び維持管理を行う場合は、政令で定める資格を有する者が行うことが定められています。JS研修には、国土交通大臣及び環境大臣の指定を受けた講習があり、研修を修了すると資格取得に必要な実務経験年数が短縮されます。

下水道法第22条に定める資格取得のための講習

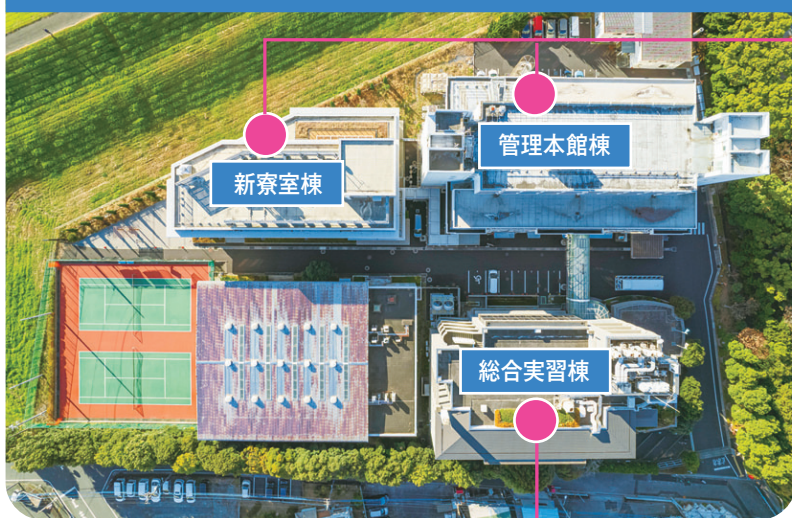
法に定める資格	法令等	コース名称	専攻名称
設計	下水道法施行規則第17条第6号 昭和44年建設省告示第309号	実施設計コース	管きよ設計Ⅱ 処理場設計Ⅱ
工事監督管理		工事監督管理コース	工事管理
処理場またはポンプ施設の維持管理	下水の処理開始の公示事項等に関する省令第2条の2第6号 昭和48年厚生省・建設省告示第1号	維持管理コース	処理場管理Ⅱ

充実した研修環境の提供

教室等と宿泊施設を併設した下水道研修専用施設

研修センター対面集合研修は、敷地内にある3つの建物を使用して行われます。講義や実習を行う「総合実習棟」、宿泊にご利用いただく「管理本館棟」「新寮室棟」です。研修期間を充実した時間にして頂けるよう、研修環境を整えています。

地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター



学習施設

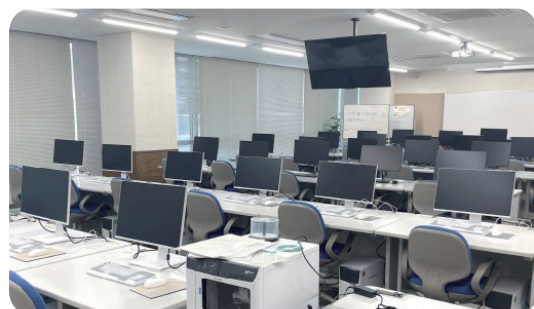


大型ホワイトボード、TVモニターを設置した 研修室



知見を深めるための 図書室

OA実習室



処理速度の速いPCで実習・演習等をサポート

水質実習室



水質実習を行うための様々な水質試験器具の設置

新療室棟

衣食住を備えた宿泊施設



ベット、クローゼット、エアコン完備の個室



ゆったりとした大浴場

打ち合わせ、交流会など、研修後のコミュニケーションに利用可能な多目的ルーム



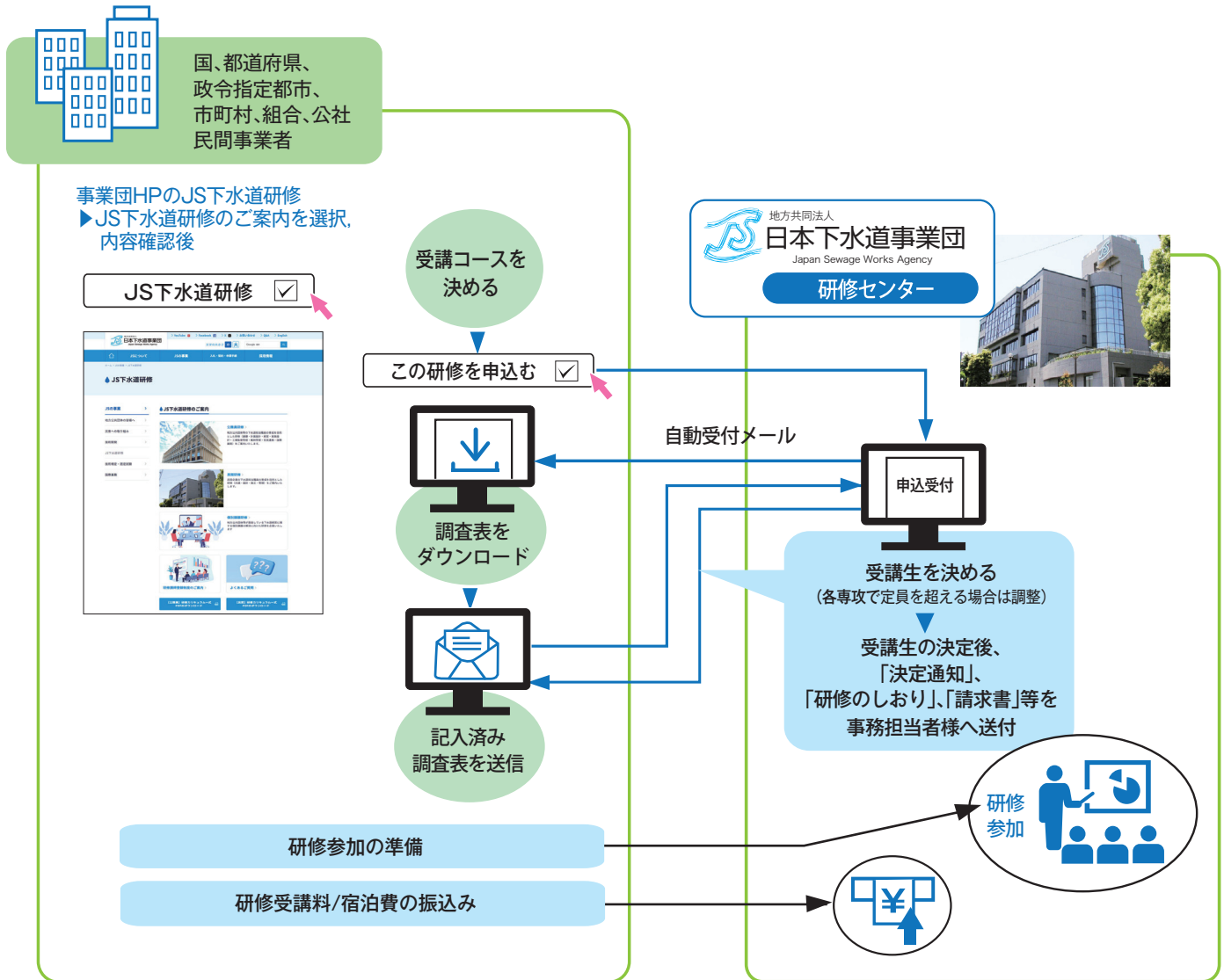
日替わりメニューで毎日(朝、昼、夕)作りたての暖かい食事を提供する食堂



運動不足の解消、研修生同士の交流の場となる運動施設
(ランニングマシン、卓球台、テニスコート)



● 申込から受講まで



● アクセス

JR埼京線：戸田駅もしくは戸田公園駅下車
(※戸田駅には快速電車は停車しません)

- ▶ 戸田公園駅から送迎シャトルバス運行 (時刻表はHPで確認)
- ▶ 戸田公園駅から路線バス(国際興業バス)を利用する場合は下笹目行きに乗車、「下笹目バス停」で下車
- ▶ 戸田駅から路線バス(国際興業バス)を利用する場合は下笹目行きに乗車、「笹目公園バス停」で下車

送迎シャトルバス



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewerage Works Agency

研修センター 研修企画課

〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141

TEL.048-421-2692(平日9:00~17:00)

mail:js-kenshu.c@jswa.go.jp



詳しくはこちら